



予防医学、健康医学が進歩したといっても、多くの人が望んでいる不老長寿はまだ夢の夢である。社会全体が貧しく、栄養状態も悪く、医療も不十分な集団では感染症や災害などによる死亡が多く、平均寿命も短い。

日本のように社会が豊かになり、医療も普及している国では感染症をはじめ急性疾患の多くは治るようになった。しかし、生まれつきの障害による病気や生活習慣の乱れに關係の深い生活習慣病の末期におこる合併症などは、現代医学でも有効な治療がない。ある程度以上に進んだがん、動脈硬化、糖尿病、腎臓病、心臓病、脳血管障害、などは予防や治療は勿論、病気の進行を止めることさえ困難である。

予防医学について

国家公務員共済組合連合会
名城病院長 早川 哲夫

このような病気では、病気の初期には、苦痛を伴う症状が少なく、気がついた時には手遅れで、どんなに治療や養生に励んでも、元の健康な体にもどることはできない。

たとえば、糖尿病では、食事療法やインスリン治療で視力障害、腎症、心筋梗塞、脳卒中などの重い合併症を予防できる時期には食欲に負けて体重の減量やインスリン注射をさぼり、気がついた時には不自由な日常生活を送る以外選択の余地のない状況になってしまう。

今から三〇〇年も前に貝原益軒（一六三〇—一七一四）が有名な「養生訓」を書いている。その中で「健康にくらすためには、食へ過ぎないこと、セツクスにおぼれないこと、早寝早起きし、適当な睡眠をとること、長時間眠ったり座ったりしないこと、ほどよく運動し気分転換をはかることなどを心がけ、風、寒、暑、湿など環境の変化に負けないことが大切である。」と

勧めている。この教えは、現在の私たちにも役立つ。彼は、「人の身を保つには、養生の道を頼むべし、鍼灸と薬力とを頼むべからず。」とも述べている。要するに、「不摂生の果てに、医者通いをしても効果はない。少くなく食へてよく働き、早寝早起きを心がけなさい」と勧めている。

そうはいつてもやみくもにはやれませんが、年に二〜三回は体重と血圧を測定しましょう。四〇歳過ぎたら職場検診はさぼらず、できれば一〜二年に一回は人間ドックで健康状態をチェックし、ライフスタイルを調節しましょう。

平成二〇年度から五カ年計画で、医療費適正化計画の一端として、特定健診・特定保健指導を厚生労働省は計画している。この計画や効果の不確実なサプリメントなどに頼らず、先の貝原益軒の養生訓のようにくらすことの方が安全で確実な健康保持の道のように思う。



市民公開講座のお知らせ

名城病院では市民公開講座を行います。ご自由にご参加ください。

(参加費無料)

第1回記念講座

テーマ 「上手な薬の飲み方」について
講師 名城病院院長 早川 哲夫
日時 平成19年 6月13日(水) 11:00~12:00
会場 名城病院 地下1階 大会議室

【お問い合わせ先】

名城病院 庶務課
公開講座係
☎(052) 201-5311
内線 2156

乳がんのお話

外科部長
上松 俊夫



ライフスタイルの変化に伴って、女性の乳がんの方が年々増えています。乳がんは最も多い女性のがんで、30代後半から急激に増えて40代で最も多くみられます。その後、徐々に減少しますが、70歳代以上の高齢者の乳がんも最近では増えています。

乳がんの症状としては、ほとんどの方が乳房のしこりや、乳頭からの分泌物、乳房の痛みを訴えています。しこりを訴えても良性的なことも多いですが、自己判断されずに、外科を受診されることをお勧めします。当科では、診察（視

診、触診）に加えて、マンモグラフィによるレントゲン検査、超音波検査を行っています。悪性が疑われる時には、針による細胞診や組織診といった病理検査で確定判断をつけています。悪性と診断されれば、MRI検査やCT検査にて、がんの広がりや精密に検査して手術を中心とした治療を行います。

乳がんの治療は、がんの大きさや場所、広がり、ホルモン感受性などを考慮しながら、手術治療、放射線治療、薬物療法を組み合わせで行います。乳がんの手術には乳房を残しながら、がんを確実に切除する乳房温存手術と、乳房を全部摘出する乳房切除術を、主に行っています。その術式の選択も、

乳がん診療ガイドラインに従って決定しています。しこりが小さい方の場合には、温存手術と放射線治療を組み合わせた乳房温存療法が主流になってきています。手術後も再発や転移を防ぐために、薬物療法、放射線療法を行っています。抗がん剤やホルモン剤もいろいろ新しい薬が開発され、その治療成績も上がってきています。

最後に、乳がんの治療法も近年大きく変化していますが、早期発見が何よりも重要です。早期発見と治療法の進歩によって、欧米では乳がんによる死亡率は減少傾向にあります。30代後半以上の女性の方には、症状がなくても一度マンモグラフィ等による乳がん検診をお勧めします。

小集団活動発表会

名城病院では3月10日に小集団活動発表会を開催しました。

小集団活動発表会は、各部署が1年間行ってきた業務改善や研究成果を発表する場です。医師のチ

ームからは、手術時の痛みを音楽で和らげる療法を、看護師のチームからは患者さんに笑顔で接することができるようにホテルマンを招くなどして研修活動を行ってきたことなどを、また、技師のチームからは防災について専門家から

指導を受け技術や知識の向上を行うなど、15チームが寸劇を交えたりして楽しい発表が行われました。6回目を迎える本年の発表会で最優秀賞を受賞した用度施設課と中央監視室の連携チームに感想をいただきました。



テーマ

私の指で地球を守る（エネルギーコストの低減）

賞の発表を告げられ大変驚きました。私たちは節電をテーマに活動を行いました。節電と言っても、毎日当たり前のように点けていた天井灯を、作業場所の見直しや手順により、点けなくてもよい時間帯や場所を探し必要に応じ点け分けたり、あまり触れたくない大型パソコンのサーバーの電源を切って帰宅するなど、些細なことばかりだったからです。しかし、小さな活動も1年間重ねてみると

70万円という大きな節電効果になった事にも驚きました。また、大勢いる病院スタッフへの働きかけとして、電気のスイッチ板や名札に可愛いオリジナルキャラクターの節電シールを貼りエコキャンペーンを行いました。

地球の温暖化や、環境問題からエネルギーコストの低減は今や必然です。今後も、意識して節電を続けていき

用度施設課・中央監視室連携チームリーダー

用度施設課 大庭 文秋

たいと思います。今回の活動に際しご協力頂いたスタッフの方に感謝しています。皆さんも、このキャラクターを電気のスイッチ板に貼って、こまめに節電を行って下さい。



新 任 医 師

● 第一内科部長

大岩 哲哉
おおいわ てつや

この4月より岐阜県の土岐市立総合病院から転任いたしました消化器内科の大岩です。消化管早期癌の内視鏡治療や手術不能進行癌の化学療法を主に消化器内科一般の診療をしておりました。環境の変化に戸惑っておりますが、安全で適切な医療を提供したいと考えています。よろしくお願いいたします。

● 内視鏡部部長

長野 健一
ながの けんいち

この4月より消化器内科に赴任しました。専門は肝臓病です。名城病院では、今後2台目のCTやMRIの稼働が予定されており、より迅速かつ正確な画像診断が可能となります。胃腸疾患や胆嚢、膵臓疾患に対してもより安全で積極的な内視鏡的治療を展開していきたいと考えています。名城病院がさらに患者さんに信頼される病院となるとともに、さらに働きやすい病院になるよう、今までの経験を生かしてお役にたてるように頑張りますので宜しくお願いいたします。

● 整形外科

多々羅 靖則
たたら やすのり

脊椎の勉強をしたくて横浜よりやってきました。とても病院が綺麗で職員の方々も親切で非常に働きやすいというのが印象です。至らぬ点が多いかと思いますが、頑張りますのでよろしくお願いいたします。

専 修 医

専修医
(2年目)加藤 大貴
かとう だいき

この4月に愛知医科大学循環器内科より転勤して参りました。まだ4年目という浅いキャリアであり、全てが勉強であると自負し、フットワークの軽さで頑張っていきたい所存です。何卒よろしくお願いいたします。

専修医
(1年目)岩瀬 宗司
いわせ そうじ

この4月から内科専修医として名城病院に勤務することになりました。初期研修は一宮市民病院で学びました。専門科(腎・糖尿病内科)の研修に生かされるように、この1年間は内科全般の幅広い知識、技術を修得するように努力したいと思っております。よろしくお願いいたします。

専修医
(1年目)山下 俊樹
やました としき

臨 床 研 修 医



臨床研修医

今枝 愛由美
いまえだ あゆみ

臨床研修医

奥村 智子
おくむら ともこ

臨床研修医

鬼頭 真知子
きとう まちこ

臨床研修医

内藤 久雄
ないとう ひさお

臨床研修医

原田 信吾
はらた しんご

臨床研修医

松原 彩子
まつばら あやこ

臨床研修医

松村 陽子
まつむら ようこ

臨床研修医

望月 里恵
もちづき りえ



臨床検査情報 一病理学的検査について一

病理検査室

病理学的検査とは、

ヒトの体の一部である組織または細胞を対象として、光学顕微鏡を用い観察し、病気の本態の解明と確定診断を行う検査です。当院では病理専門医が病理診断を行っています。

病理学的検査には、

主に病理組織検査と細胞診検査があります。

ヒトの体は細胞と細胞が作り出す物質とで構成されていて、一定の規律を持って存在しています。



病気になると、

細胞が変化したり、規律が乱れたりします。それらは固定し染色して標本を作成することにより、光学顕微鏡を使って目で見る事ができます。

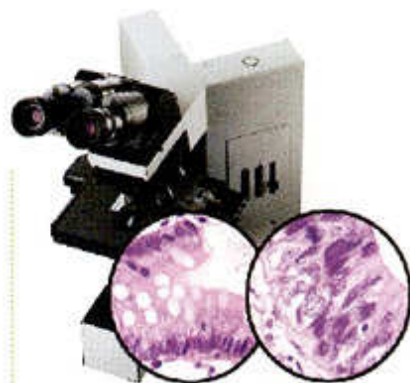
たとえば、

癌などの腫瘍は細胞が形も性格も異常になり規律も乱れるので、光学顕微鏡で観察すれば診断ができます。

一言で、

癌と言ってもいろいろな種類があり、それに応じた治療や予後の予測があります。

病理学的検査では癌がどうかだけではなく、その分類や性状の診断まで行っています。



病理組織検査は、

体の一部を切り取って行うため、痛みや苦痛が伴う事もありますが、細胞診検査では喀痰や尿などに剥離した細胞や病変部分などから擦り取った細胞が対象で、痛みなどの負担が小さいのが特徴であり、癌発見のためのスクリーニングとしても行われています。

編集後記



久しぶりに昔よく釣りをした場所に行った。川の流れとテトラポット、左前方に岐阜城があり、長良川に浮かぶ鶴船船…昔のままだった。その当時は、ここに来るとワクワクしながら釣りを楽しみ、あつという間に時間が過ぎていった事を思い出す。もっと一日が長ければといつも思いながら辺りが暗くなるまで釣っていた。そんなに長く居ても飽きがこない場所である理由には、もう一匹釣りたいという願望ともう一つそこに残りたい何かがあったような気がする。小さい頃は魚が釣れる所を探すのに夢中だったため、気にも留めなかったが、多分知らぬ間にその風景に癒されていたのでは無いだろうか。それを今になって感じる事が出来た。またいつの日か癒されに行きたいと思う。(K.O)

名城病院診療等のご案内

<http://www.meijohosp.jp>

■ 診療科目

内科・循環器科・小児科(小児循環器)・外科
整形外科・脳神経外科・心臓血管外科・皮膚科・泌尿器科
産婦人科・眼科・歯科口腔外科・神経内科

*神経内科及び午後の診療等、詳しくは 医事課 (052)201-5311
内線2132にお問い合わせ下さい。

*医療福祉に関するお問い合わせは、医療福祉相談室 内線 5105まで

■ 診察受付時間

新患受付 午前8:30~11:30まで
再来受付 午前8:00~11:30まで

■ 面会時間

平日 午後0:30~8:00まで
土・日・祝 午後0:30~8:00まで
但し、①小児科病棟は、午後7:00まで
②ベビーの面会は、

午後0:30~1:30まで
午後3:30~4:30まで
午後6:30~7:30まで

の3回です。
③ICU室への面会は30分以内に限らせていただきます。

■ 診療案内

休診日 土曜日・日曜日・祝日
年末年始(12月29日~1月3日)・創立記念日(11月6日)

■ 所在地

〒460-0001 名古屋市中区三の丸1-3-1
TEL (052)201-5311 FAX (052)201-5318